

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城北中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 学習習慣が身につかず、基礎基本の定着に課題が見られる。</p> <p><指導上の課題> 計画的・継続的な学習をする習慣を身につかせる指導を行う。</p>	⇒ 朝学習で短時間学習(ドリルパーク、スタサブ)を行い、基礎基本の定着を図る。小テストの実施やSSDBから生徒の習熟度を把握して指導改善を行う。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 文章を読み取り、自らの考えを書き出す力に課題が見られる。</p> <p><指導上の課題> 自己表現や、考えを書き出して整理し、まとめる機会をより多く設定する指導を行う。</p>	⇒ 単元ごとの学習の区切りにおいて、自分の言葉でまとめ、整理する。さらに共有を行うことで、表現する力を養う機会を設ける。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	選択問題に関してはどの生徒も意欲的に取り組み、図形の移動やデータの読み取りなどの知識は全国を上回り、身につけていることが読み取れるが、短答式等の技術を要する問題に定着の差が見られた。「我が国の言語文化に関する事項」が他の項目に比べ、差が大きい。本校は古典に関する内容においては、定着が見られるが、定着しきれていない現状であることが分かる。	
思考・判断・表現	各領域における問題においての無回答率が高く、自分の考えを表現したり、問題の意味や比較したりすることが課題になっていると考えられる。 本校の「書くこと」の正答率は、大きい差ではないものの、比較すると差異が分かる。「書くこと」の中でも「記述式」の問題に対する無回答率が高いため、本校は、自分の考えを自分の言葉で表現することに関し、課題が見られることが分かる。また、「読むこと」に関して、本校・県・全国とどれも正答率が40台で全国の中学生が苦手であることが分かる。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	朝学習において、教科を指定し実施することができた。基礎基本の定着までの道のりは残っているため、「学習の個別最適化」の視点も取り入れながら、知識・技能の更なる定着を目指す。	変更なし
思考・判断・表現	B	授業において、「学びあい」や「表現する機会」、「区切りで考えをまとめたり共有する機会」等、思考・判断・表現力向上を目指した取組の充実を図っているところである。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)